

第6節 音 楽

第1 指導計画の作成

1 指導計画作成の基本的な考え方

(1) 小学校音楽科の目標を十分踏まえる（解P9）

音楽科の目標(1)は、「知識及び技能」の習得、(2)は、「思考力、判断力、表現力等」の育成、(3)は、「学びに向かう力、人間性等」の涵養を目指すことを示している。

(2) 音楽的な「見方・考え方」を働かせる活動を展開する（解P10～P11）

音楽的な「見方・考え方」とは、音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音色、リズム、速度、反復、呼びかけとこたえなどの音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、捉えたことと自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けることであり、音楽科を学ぶ本質的な意義をなすものである。

「見方・考え方」は、教え込むものではなく、思考、判断し、表現する一連の過程を大切にしたい学習の充実を図り、その中で児童が「見方・考え方」を働かせることができるようにすることが重要である。児童が音楽を形づくっている要素を捉え、それらの働きについて思考する場面はどこか、また、音や音楽をイメージや感情等と関連付けて考える場面はどこかという視点をもって指導計画の作成を行うようにする。

(3) 「生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力」を育成する（解P11）

生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力とは、解説編P11～に示されているとおりである。生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するためには、生活や社会の中の音や音楽の働きの視点から、児童が学んでいること、学んだことを自覚できるようにしていくことが大切である。そのためには、児童が、思いや意図をもって表現したり、音楽を味わって聴いたりする過程において、理解したり考えたりしたこと、音楽を豊かに表現できたこと、友達と音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図って交流し共有したり共感したりしたことなどが、生活や自分たちを取り巻く社会とどのように関わり、また、どのような意味があるのかについて意識できるようにすることが大切である。

(4) 指導内容の系統化を図る（解P4～5、15～18）

学習指導要領では、従前のおり音楽科における学年の目標及び内容を2学年まとめて示している。このことは、音楽科で育成を目指す資質・能力が、学習の継続・発展によって高められるという、音楽の学習の特性を考慮したものである。各学校では学年の目標及び内容に示している指導事項について十分検討した上で、6年間又は9年間を見通して系統化や他の教育活動との関連を図り、指導の効果を高めるようにすることが大切である。

(5) 児童や学校、地域の実態等を考慮する

児童の音楽的な発達の段階や音楽経験、各学校の指導体制や教材、楽器等の整備状況、地域の教育資源や学習環境などの実態を十分把握するとともに、「3 指導計画作成に当たっての留意すべき事項」3(3)「教科横断的」な視点や3(4)「社会に開かれた教育課程」との関連も考慮する。

2 指導計画作成の一般的な手順

※1 各学校における音楽科の重点の設定

学習指導要領の目標等を十分研究した上で、地域や学校の実態等を考慮し、各学校の教育目標が反映されるようにする。また、児童の心身の発達の段階や興味・関心、音楽経験等の特性、保護者の意向などを反映していくことも大切である。

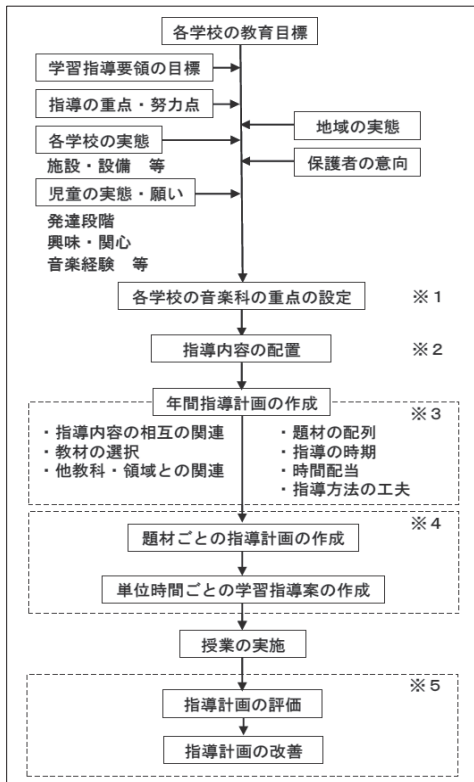
※2 各学年の指導内容の配置

各学年においては、地域や学校の実態、児童の心身の発達の段階や特性等を考慮して具体的な指導内容を適切に配置する。また、各指導内容と〔共通事項〕を関連させる。

ア 2学年間を見通した指導

学習指導要領では内容を2学年まとめて示しており、次のような取り上げ方が考えられる。

- ・いずれの学年でも題材や教材を変えて繰り返し指導する。
- ・児童の発達の特性などから扱う学年を一方にして指導する。



※5 指導計画の改善

授業実施後、指導計画の評価を行い、指導計画の改善を随時行う。さらに次年度の指導計画作成に生かす。

3 指導計画作成に当たっての留意すべき事項

- (1) 「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた児童への指導」の視点（解P109～110）
 - ・器楽演奏を行う際には、児童の実態に応じた目標を設定し、スモールステップで取り組む中で達成感を味わいながら学習できるようにする。
 - ・多くの声部が並列している楽譜などは、拡大楽譜を用いて声部を色分けしたり、リズムや旋律を部分的に取り出してカードにししたりするなど、視覚的に情報を整理するなどの配慮をする。
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点（解P3～4、P103～105）

音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさを見いだしたりするなど、思考、判断し、表現する一連の過程を大切にする視点から授業改善を図ることが重要である。
- (3) 「教科等横断的」な視点（解P4～5）

音楽科における言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等としては、次のようなものが考えられる。

 - ・言語能力…曲想や自分の思いや意図を、音楽を形づくっている要素、音楽に関する用語や記号などを用いて説明する。
 - ・情報活用能力…自分たちの演奏をタブレット型端末やICレコーダーに録音し、聴き比べたりよさや課題を見付けたりする。
 - ・問題発見・活用能力…自分たちの歌唱について録音を基に振り返り、課題に気付いて、客観的な理由や根拠を基によりよい音楽表現を生み出していく。
- (4) 社会に開かれた教育課程（解P113）

児童が学校内及び公共施設などの学校外における音楽活動とのつながりを意識できるようにすることが求められる。その例として、①地域の人的・物的資源の活用、②公共施設等の学校外における音楽活動の実施、③郷土の伝統音楽・文化の伝承等が挙げられる。
- (5) 「道徳教育の充実」の視点（解P110）

道徳教育の全体計画との関連、指導内容及び時期等に配慮し、両者が相互に効果を高め合うようにすることが大切である。

・楽器の演奏技術の習得のように長い期間をかけて学習活動を展開する。

イ 教材や楽器の選択

各学年で取り扱う教材や楽器を選択する際には、学習指導要領に示された選択の観点を踏まえ、学校や児童の実態等を考慮して適切に選択する。また、学習指導要領に示された〔共通事項〕の意義を踏まえ、表現と鑑賞の関連を図るよう適切に選択する。

※3 年間指導計画の作成

各指導内容と〔共通事項〕を関連させるとともに、「3 指導計画作成に当たっての留意すべき事項」についても十分配慮する。また、他教科・領域との関連、指導の内容及び時期等に配慮し、両者が相互に効果を高め合うようにする。

※4 題材ごとの指導計画、単位時間ごとの学習指導案の作成

年間指導計画を基に、題材ごと、単位時間ごとの学習指導案を作成する。その際、指導目標を明確にするとともに、評価基準を設定する。また、配慮を要する児童への支援の方策を立てる。

第2 指導計画の作成のための資料

ここに掲げる資料は、各学校において年間指導計画等を作成する際の参考となるためのものである

(1)マトリックス表 [第1学年]

第1学年及び第2学年の目標 (1) 曲想と音楽の構造などについて深くくとも、音楽表現を楽しむために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。 (2) 音楽表現を考えて表現に対する思いをもつことや、曲や演奏の楽しさを思い出しながら音楽を味わって聴くことができるようになる。 (3) 楽しく音楽に親わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、身の回りの様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにし、よくとする態度を養う。		学 習 内 容										B鑑賞		[共通事項]							
		A 表 現					(3) 音楽づくり					ア	イ	ア	イ						
		(1) 歌唱		(2) 器楽			ウ	ア	イ	ウ	ア					イ	ウ	ア	イ		
		ア	イ	ウ	ア	イ						ウ	ア	イ	ウ					ア	イ
月	題 材 名	主 教 材 ◎共通教材	時																		
4	おんがくにあわせて なかよくならう	ちゅうりっぷ、ちよう ちよう、ぞうさん おせんべ、やけたかな ◎ひらいた ひらいた なべなべ ◎かたつむり 他	10																		
6	リズムにのってあそ ぼう	さんぽ じゃんけんぽん しろくまの ジェンカ ぶん ぶん ぶん ことばでリズムづくり ◎うみ	12																		
7																					
9	どれみとなかよしに ならう	さんぽ どれみのうた どれみの キャンディ	2																		
10	どれみであつたり けんぱんハマーニカ をふいたりしよう	みつぼちの ぼうけん どんぐりさんのおうち どれみであそぼう ◎ひのまる	8																		
11	ようすを おもいうかべよう	おどる こねこ はる なつ あき ふゆ おもちゃのチャチャチャ	6																		
12	いれおとを みつげよう	シンコーテッドクロック きらきらぼし おとさがし ほしぞらの おんがく	9																		
1	わらべうたを たのしもう	さんちゃんがおおみこな おちやらか ぼい おちやをのみにきてください	5																		
2	きいて あわせて たのしもう	やまびこ ごっこ もりのくまさん こいのの まーち ラデツキーコーしんきよく	10																		
3	みんなであのしく うたおう	おおきな かぶ 他	4																		

各指導事項において取り扱う〔共通事項〕を示す。

※国歌「君が代」の指導については、各校の実態に応じて、確実に行う。

(2)各題材の具体を示した表 [第1学年]

Table with columns: 月, 題材名, 教材名, 題材について, 学習内容・学習活動, 指導事項, 学習指導要領内容との関連, 評価計画, 備考. The table details the curriculum for the first grade, including topics like 'Music and Social Life' and 'Music and Emotions'. It lists specific songs and activities, and maps them to the Learning Guide for Music Education. Evaluation criteria focus on understanding lyrics and musical elements. A callout box explains the criteria for selecting materials.

(3)マトリックス表 [第3学年]

学習内容		表												B鑑賞		[共通事項]			
		A表				現				(3)音楽づくり									
		(1)歌唱		(2)器楽		ウ		ウ		イ		ア						ウ	
<p>(1)曲想と音楽の構成などとの関わりについて気付くことも、に、表したい音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)音楽表現を考えた表現に対する思いや意図をもつこと、曲や演奏のよきな点を思い出しながら音楽を味わって聴くことができるようにする。</p> <p>(3)連んで音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。</p>	月	題材名	主教材	時	ア	イ	ウ	ウ	ウ	ア	イ	イ	ア	イ	ア	イ	イ	イ	
	4	明るい歌声をひびかせて歌おう	キラキラおひさま ◎共通教材 ◎春の小川 海風きつて せんりつづくり ◎茶つみ	9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	5																		
	6	リコーダーとなかよしになろう	小鳥のために ステップ1・2・3/ 小さな花 ゆかいなまきば きらきら星 坂道/雨上がりがり/かりわりわかれ そよ風	10	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	7																		
	9	リズムをかんじて楽しもう	ゆかいな木ざん 手拍子でリズム ◎うさぎ	8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	10																		
	11	せんりつのとくちようをかんじてつてえんそうしよう	あの雲のように メヌエット 山のポルカ ◎ふじ山	10	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	12	いろいろな音のひびきをかんじて楽しもう	おかしの子きなまほう使、まほうの音楽 パフ トランペットふきの休日/アレグロ	10	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	1	日本の音楽のよさを見つけてよう	神田囃子/花輪ぼやし /小倉祇園太鼓 ラドレの音でせんりつづくり	5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	2																		
	3	音を合わせる楽しさを味わおう	歌おう 声高く かね エーデルワイス	8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

各指導事項において取り扱う〔共通事項〕を示す。

※国歌「君が代」の指導については、各校の実態に応じて、確実に行う。

4)各題材の具体を示した表 [第3学年]

○「何が得意になるか」を具体的に学習内容を明確にし、
資質・能力を育成するために、「どのよう学ぶか」も明確にする。

◆題材については「音楽的な見方・考え方をどう捉え、どのよう働かせ
るか」「教材選択の理由」「生活や社会との関連」等の視点を明確にする。

教材名	題材名	教材名 ◎共通教材	題材について (例として、◆の題材は詳細を記入。それ以外はポイントのみ記入。)		学習指導要領内容との関連		備考
			学習事項	評価計画 評価 規準 方法			
4	明るい歌声をひ びかせて歌おう (9時間)	◎共通教材 セラキラおひさま ◎春の小川 海風きつて せんりつづくり ◎茶つみ 他	ハ長調の美譜に親しみ読譜に慣れる。 ・自然で無理のない歌い方で友達と一緒に歌う楽しさを味わう。	○歌詞の表す情景を思い浮かべ、曲想を感じ取る。 ・音程に気を付けながら解明視唱する。 ・旋律の特徴に気付いて歌う。 ・曲にふさわしい表現を工夫して歌う。	2 (1) イ 音楽との一体感 2 (1) オ 著作者の創造性を尊敬す 態度 2 (4) ア 日本のうた	評価に関する内容を記述する 【3(6)】	
5	リコーダーとな かよしになろう (10時間)	小島のために ステップ1・2・ 3/小倉なな花 ゆかいなまきば きらきら星 坂道/雨上がりが かりかりわかれ そよ風 他	◆リコーダーに親しみながら、その音色を感じ取り、基本的な演奏の仕方を身に付けたりする。鑑賞を通して、リコーダーの音色を味わい、リコーダーの演奏や音色にあこがれを抱き、興味・関心をもつことができるようにする。リコーダーの演奏では、音色やその響きの特性を生かすための技術を身に付けるようにする。リコーダーの音色を聴き取り、その響きのよさを感じ取りながら、タンギングや息の強さなど演奏の仕方を工夫する。	○リコーダーの基本的な演奏の仕方を身に付ける。 ・リコーダーによる演奏を鑑賞し、音色に興味をもつ。 ・息の強さやタンギング、音色や運指に気を付けて演奏する。 ・旋律の特徴に気付く、劇的な旋律を合わせて演奏する。	2 (1) ア 言語活動 2 (5) ウ 旋律楽器の選択	マトリックス表参照	
6	リズムをかんじ て 楽しもう (8時間)	ゆかいな木さん 手拍子でリズム ◎うさぎ 他	◆日本古謡の雰囲気を感じ取る。 ・拍子やリズムの特徴を感じ取り、表現を工夫する。 ・音楽の仕組みを生かしてまとまりのあるリズムをつくる。	○二部形式のまとまりのあるリズムの仕組みに気付く。 ・反復と変化によるまとまりのあるリズムの仕組みを生かしながら、演奏したりリズムをつくったりする。 ・日本古謡の雰囲気を感じ取りながら歌う。	2 (4) ア 日本のうた 2 (5) オ 合奏で使う楽器		
7	せりりつとく ちようをかんじ とってえんそう しよう (10時間)	あの雲のように メヌエット 山のボルカ ◎ふじ山 他	◆旋律の特徴や曲想とその変化を感じ取り、曲想にふさわしい表現を工夫しながら思いや意図をもって歌ったり演奏したりする。鑑賞を通して感じ取った旋律の特徴の対比により、曲想の変化を感じ取って三部形式の楽曲の構成を捉えたり、表現の工夫を生かしたりする。歌唱では、旋律の特徴や曲想を感じ取ることで、思いや意図を生かすこと、実際に歌ってみることを繰り返すようにする。思いや意図を言葉で伝え合うこと、実際に歌ってみることを繰り返すようにする。思いや意図を言葉で伝え合うこと、実際に歌ってみることを繰り返すようにする。思いや意図を言葉で伝え合うこと、実際に歌ってみることを繰り返すようにする。	○旋律に着目し、その特徴を感じ取る。 ・旋律の特徴を生かし、表現を工夫しながら、思いや意図をもって歌ったり演奏したりする。 ・旋律の特徴を感じ取り、楽曲全体にわたる曲想とその変化を感じ取りながら聴く。	2 (1) イ 音楽との一体感 2 (7) 鑑賞の指導		
8	いろいろな音の ひびきをかんじ て楽しもう (10時間)	おかしのすきな まほう使い まほうの音楽 バフ トランペットふき の休日 アレグロ 他	◆楽器の音の特徴や音色の速い、遅い、即興的にイメージに合う音を選び表現したり、反復などの音楽の仕組みを生かしてまとまりのある音楽をつくったりする。また、互いの楽器の音を聴きながら音に合わせて演奏したり、楽曲の構造に気づいて聴いたりする。 ・即興的につくった音楽を反復したり、楽器の組合せや重なり方を工夫して変化させたりすることで、まとまりのある音楽をつくる。旋律の反復や変化が多くなる楽曲を、楽曲の構造に気を付けて鑑賞し、反復や変化が生み出すよさや面白さを感じ取る。	○いろいろな楽器の音色の特徴に気付く。 ・楽器の材質の違いや、打つ位置、マレットを変えることでいろいろな音色を工夫しながら演奏する。 ・楽器の組み合わせや重なり方など、音楽の仕組みを生かしながら、まとまりのある音をつくる。 ・トランペットとホルンの音色の違いや音の特徴を感じ取る。	2 (1) エ 学校内外の音楽 活動 2 (6) 音楽づくりの指導 2 (7) 鑑賞の指導	【3(2)】児童や学校の楽器に反応し、適切に位置付ける。 ○主体的な学習に取り組むことにより、学習の楽しさを味わったり、学習したことを振り返ったりして自身の学習の様子や進捗を振り返る場面を工夫する。	
9	日本の音楽のよ さを見つけてよう (5時間)	神田囃子 花輪ばやし 小倉祇園太鼓 ラドレの音でせん りつづくり 他	◆和楽器や我が国の音楽、郷土の音楽に親しみ、雰囲気や特徴を感じ取る。鑑賞を通して、反復(繰り返)のリズムで構成されている面白さや速度の変化、和楽器の音色などの視点を鋭く、お雛子のよさを感じ取る。自分たちの住んでいる身近な地域の祭りの音楽や郷土に伝わる音楽に興味を広げ、古くから伝わる我が国の音楽や郷土に伝わる音楽のよさや特徴を感じ取る。	○お雛子の特徴を感じ取る。 ・楽器の音色に着目し、太鼓や笛などが使われていることを知る。 ・三つのお雛子を聴き比べ、お雛子の特徴や共通点、相違点に気付く、それぞれのよさについて考える。 ・ラ、ド、レの三つの音を使い、お雛子の旋律をつくる。	2 (3) 我が国や郷土の音楽の指導 2 (7) 鑑賞の指導	【3(6)】	
10	音を合わせよう しを味わおう (7時間)	歌おう 声高く かね エーデルワイス 他	◆重なり合う音や旋律に関心をもち、互いの歌声や楽器の音に合わせて演奏する。 ・旋律の音の重なりや反復する旋律に着目しながら楽曲を聴く。	○旋律が重なり合う面白さを感じ取る。 ・旋律の重なり方に気を付けて聴き、主な旋律、反復する旋律を歌う。 ・重なり合う音の豊かな響きを感じ取る。 ・互いの音を聴き合い、音量のバランスや強弱などを工夫して合奏する。	2 (1) ア 言語活動 2 (7) 鑑賞の指導	【3(2)】児童や学校の楽器に反応し、適切に位置付ける。 ○主体的な学習に取り組むことにより、学習の楽しさを味わったり、学習したことを振り返ったりして自身の学習の様子や進捗を振り返る場面を工夫する。	

(5)マトリックス表 [第5学年]

		学 習 内 容															
		A 表						現 在									
		(1) 歌唱			(2) 器楽			(3) 音楽づくり			B 鑑 賞			(共通事項)			
月	時	主 教 材 ◎共通教材	題 材 名	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ
				歌 得た生かして しなな ら曲の 特徴と 意図を 見つけ よう	曲 想と 楽 器の 関係 を 理 解 す る こ と	ウ 曲 想 と 楽 器 の 関 係 を 理 解 す る こ と	イ 各 部 の 奏 法 を 理 解 す る こ と	ウ 各 部 の 奏 法 を 理 解 す る こ と	イ 各 部 の 奏 法 を 理 解 す る こ と	ウ 各 部 の 奏 法 を 理 解 す る こ と	ア 各 部 の 奏 法 を 理 解 す る こ と	イ 各 部 の 奏 法 を 理 解 す る こ と	ウ 各 部 の 奏 法 を 理 解 す る こ と	ア 各 部 の 奏 法 を 理 解 す る こ と	イ 各 部 の 奏 法 を 理 解 す る こ と	ウ 各 部 の 奏 法 を 理 解 す る こ と	ア 各 部 の 奏 法 を 理 解 す る こ と
4	5	レッツイクイアチャンス ◎ こいのぼり 他	ゆたかな声で歌い合わせよう	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	6	小さな約束 いつでもあはれは リボンのおどり アイネ・クライネ・ナ ハトムジーク第1楽章 リズムアンサンブル	いろいろな音の重なりを感じ取ろう	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6	7			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7	9	静かにねむれ こげよマイケル	和音のひびきを味わおう	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8	10	威風堂々第1番 まつたな秋 キリマンジャロ	曲の魅力を感じ取ろう	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9	11	山田耕筰の歌曲 ◎冬げしき ◎スキーの歌 ゆきの音楽づくり	詩と音楽の関わりを楽しもう	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
10	12			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	1	春の海 さくらさくら ◎子もり歌 旋律づくり 声による世界の国々の音楽	日本と世界の音楽の魅力を見つけよう	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12	2			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1	3	生命のいぶき 旅立ちの日に	学んだことを生かして表現しよう	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

各指導事項において取り扱う〔共通事項〕を示す。

※国歌「君が代」の指導については、各校の実態に応じて、确实に行う。

〔6〕題材の具体を示した表〔第5学年〕

題材名	教材名 ◎共通教材	題材について	学習指導要領内容との関連 指指導事項	評価計画 評価 評価 評価 評価	備考
4 ゆたかな声で 歌い合わせよう (5時間)	レッツ ア チャン ス ◎こいのぼり 他	◆新年度がはじまり、不安を抱える児童もいる中、友達と一緒に音楽を楽しむ協働的活動活法は、人間関係を築くのに大変効果的である。本題材では、歌詞の内容と曲想との関連に気づき、曲の感じを生かして歌い方を工夫する。題材のない環境の中で児童が安心して活動できるように、前学年からの学習の繋がりや意識する。また、本時の課題を明確にして、達成感を得られる授業を行う。 そのためには、共通事項の柱を、リズム、フレーズ、強弱などのように、明確にしておく必要がある。そして、曲の山を見つけて、それに向かうまでの歌い方を試したり、「こいのぼり」の付点のリズムの歌い方を試したり、歌詞の意味を考えてたフレージで歌っているかを試したりするなどして、実際に歌いながら仲間と共に合唱を仕上げる楽しさを味わうようにする。4月の出会いにふさわしい、明るく軽快で、伸び伸びと歌える楽曲を選択する。	2 (1) イ 音楽との一体感	評価に関する内容を記述する	各題材における特徴となる事項を記入する
5	小さな約束 いっ つでもあの梅 りポンのおどり アイネ・クライン ネ・ナハトマジン ク第1楽章 リズムアンサン ブル	・楽器の音色の特徴に気づき、旋律や伴奏が重なり合う響きを味わう。 ・共通事項を音の重なり合いに焦点化し、各パートの役割を全体で確認する。どのようによりリズムを取りながら、主旋律を引き立てるためにどんな演奏の工夫が必要か、試行錯誤する場面を設定する。 ・楽器の組み合わせを試しながら偶然生まれたよい響きを楽しむなどの体験を通して、音の面白さ、音色のよさへの知識理解を深める。	2 (6) オ 2 (6) 合奏や吹奏楽器 音楽づくりの指導 2 (7) 鑑賞の指導		
6	静かにわかれ 静かにわかれ まっかな秋 キラマンジャロ	◆曲想とその変化を感じ取りながら味わう。曲想にふさわしい表現を工夫して演奏したりする。 ◆曲想の変化を感じ取り、思い浮かべたことを自由に語りたり、感じたことの根拠を言葉の中から見つけ自分の言葉で説明したりする。繰り返して曲想の変化を生かして自分話し合う。 ◆生活の中の様々な場面において、自分の考えをもつようにする。	2 (1) イ 音楽との一体感 2 (2) 和音の指導		
7	和音のひびきを 感じよう (4時間)	◆和音の響きの変化を感じ取り、和音の響きの美しさを味わう。 ◆初めに学習する和音について、主要三和音の役割と響きを理解する。「続く感じ」「終わる感じ」など既習事項と関わりがあることを、音を通して実感する。ハーモニーをつくる楽しさを感じ、和音の重なりで学習したことを見せかして、調和させるための工夫について話し合う。 ◆普段の生活の中で歌っていた音楽も、IV、V、V7などの和音を支えられていることにより、和音の響きや伴奏が重なり合う響きを味わう。	2 (1) ア 言語活動 2 (7) 鑑賞の指導		
8	和音の響きを感じよう (7時間)	◆日本語の語感を生かした旋律のよさや面白さを感じ取り、情景を思い浮かべながら、聴いたり表現したりする題材である。日本語の持つリズムや抑揚について、言葉の面から興味・関心を持って学習すること、これによって和音の響きや抑揚、重唱・斉唱などの演奏形態について知識を広げ、「ゆきの音楽づくり」を生かすようにする。児童がリズムや抑揚に課題に取り組む、歌だけでなく、世界の音楽を表現する面白さを味わうことができるように、教師が事前に準備をすることが大切である。「ゆきの音楽」の模範演奏や音楽をつくることも必要である。このように学習を通して、日本語の言葉のリズムや抑揚に関心をもち、長く歌い継がれてきた歌をこれからも大切にしようとする態度を養う。	2 (1) ア 言語活動 2 (1) オ 著作者の創造性を 敬服する態度 2 (6) 音楽づくりの指導	【3 (2)】 児童や学校の状態に 応じ、適切な位置づけ し、主体的な学習に取 組めるように学習の具 体を立てたり、学習し たことを振り返る場 面などを設定する。 ※このように自分の 考えを表現する場面 に設定する場合は、 先生が考える場面に 応じて適切に調整す ることが求められる。	
9	春の聲 さくらさくら ◎子もり歌 旋律づくり 声による世界の 国々の音楽 日本と世界の 音の対比 見つけよう (9時間)	◆この題材では、我が国の伝統的な音楽や諸外国の音楽の特徴を感じ取り、そのよさを味わったりして、それぞれを表現しようとする。「春の海」は我が国の伝統に西洋の音楽的要素を取り入れたA-B-Aの構成、呼びかけとこたえ等の仕組みに気づき、楽器の音色や特徴を生かした楽しい旋律を生かすようにする。「さくらさくら」の演奏を体験すること、より音色や美しさなどの理解が深められる。筆で旋律づくりをしても面白い。また、歌唱では「子もり歌」だけでなく、わらべうたや民謡等の日本のうたに触れ、地方によって多少の違いはあるが、長い時間をかけて変わらなず伝えられてきた音楽のよさを味わうようにする。 諸外国の音楽に親しむ活動では、様々な「声」の音楽を取り上げ、比較鑑賞をしながら、音色や発声の仕方、リズム等の特徴を感じ取るようにする。このよさ、興味、関心を生かして、音楽が、人々の暮らしの中からはじめ、長い年月月切な役割を果たしてきたことに気づき、自国の文化に誇りをもつだけでなく、他国の文化を尊重する態度を養う。	2 (1) ア 言語活動 2 (3) 我が国や世界の音楽の指 導 2 (4) ア 日本のおうた 2 (6) 音楽づくりの指導	【3 (3) (6)】	
10	生かしたことを 生かして表現 しよう (6時間)	◆これまでの学習を生かして表現を工夫し、合奏や合唱の響きを味わう。 ◆自分たちの演奏を録音するなどして各個人の働き、意図したことが表現できているか、意見交換し、より良い表現を目指す。	2 (1) エ 学校内外の音楽活動	【3 (3)】	

◆「何ができてよくなるか」を具体的に学習内容を明確にし、「観察・能力を育成するために・どのように学ぶか」も明確にする。

○学習内容・学習活動

○新しいクラスの中と同じ曲を聴き、気分をほぐす。
・校歌などにより、全員が知っている曲を歌って気分をほぐす。
○曲の雰囲気を味わう。
・「レッツ テイク ア チャンス」や「こいのぼり」の歌詞や発声の仕方を確認する。
・曲を音で聴く。
・歌詞を聴き、歌詞の意味を知る。
・旋律を聴き、リズムやフレーズの付点をつけて歌う。
・歌詞の意味を工夫する。
・曲の山の部分の歌い方について考え、意見交換しながらよりよい表現を追求する。

○2部合奏や2部合唱の響きを感じ取る。
・「小さな約束」の3つのパートの役割を全体で確認する。どのようによりリズムを取りながら、主旋律を引き立てるためにどんな演奏の工夫が必要か、試行錯誤する場面を設定する。
・楽器の組み合わせを試しながら偶然生まれたよい響きを楽しむなどの体験を通して、音の面白さ、音色のよさへの知識理解を深める。

○和音の響きの変化を感じ取り、和音の響きの美しさを味わう。
◆初めに学習する和音について、主要三和音の役割と響きを理解する。「続く感じ」「終わる感じ」など既習事項と関わりがあることを、音を通して実感する。ハーモニーをつくる楽しさを感じ、和音の重なりで学習したことを見せかして、調和させるための工夫について話し合う。
◆普段の生活の中で歌っていた音楽も、IV、V、V7などの和音を支えられていることにより、和音の響きや伴奏が重なり合う響きを味わう。

○曲想の移り変わりを感じ取る。
◆対照的な2つの曲が交互に現れることに着目し、「威風堂々第一番」を聴く。
◆和音の響きや伴奏が重なり合う響きを味わう。
◆初めに学習する和音について、主要三和音の役割と響きを理解する。「続く感じ」「終わる感じ」など既習事項と関わりがあることを、音を通して実感する。ハーモニーをつくる楽しさを感じ、和音の重なりで学習したことを見せかして、調和させるための工夫について話し合う。
◆普段の生活の中で歌っていた音楽も、IV、V、V7などの和音を支えられていることにより、和音の響きや伴奏が重なり合う響きを味わう。

○曲想の移り変わりを感じ取る。
◆対照的な2つの曲が交互に現れることに着目し、「威風堂々第一番」を聴く。
◆和音の響きや伴奏が重なり合う響きを味わう。
◆初めに学習する和音について、主要三和音の役割と響きを理解する。「続く感じ」「終わる感じ」など既習事項と関わりがあることを、音を通して実感する。ハーモニーをつくる楽しさを感じ、和音の重なりで学習したことを見せかして、調和させるための工夫について話し合う。
◆普段の生活の中で歌っていた音楽も、IV、V、V7などの和音を支えられていることにより、和音の響きや伴奏が重なり合う響きを味わう。

○日本語の語感を生かした旋律のよさや面白さを感じ取り、情景を思い浮かべながら、聴いたり表現したりする題材である。日本語の持つリズムや抑揚について、言葉の面から興味・関心を持って学習すること、これによって和音の響きや抑揚、重唱・斉唱などの演奏形態について知識を広げ、「ゆきの音楽づくり」を生かすようにする。児童がリズムや抑揚に課題に取り組む、歌だけでなく、世界の音楽を表現する面白さを味わうことができるように、教師が事前に準備をすることが大切である。「ゆきの音楽」の模範演奏や音楽をつくることも必要である。このように学習を通して、日本語の言葉のリズムや抑揚に関心をもち、長く歌い継がれてきた歌をこれからも大切にしようとする態度を養う。

第3 音楽における「知識」の捉え方

音楽科における「知識」とは、児童が音楽を形づくっている要素などの働きについて理解し、表現や鑑賞などに生かすことができるような知識である。このような知識は、表現や鑑賞の活動を通して、実感を伴いながら理解されるようにするものであり、曲名や、音符、休符、記号や用語の名称などの知識のみを指すものではない。児童一人一人が、体を動かす活動などを含むような学習過程において、音楽に対する感性などを働かせて感じ取り、理解したものであり、個々の感じ方や考え方等に応じて習得されたり、新たな学習過程を通して更新されたりするものである。

音楽科における「知識」の習得に関する指導に当たっては、主に次の2点が重要である。

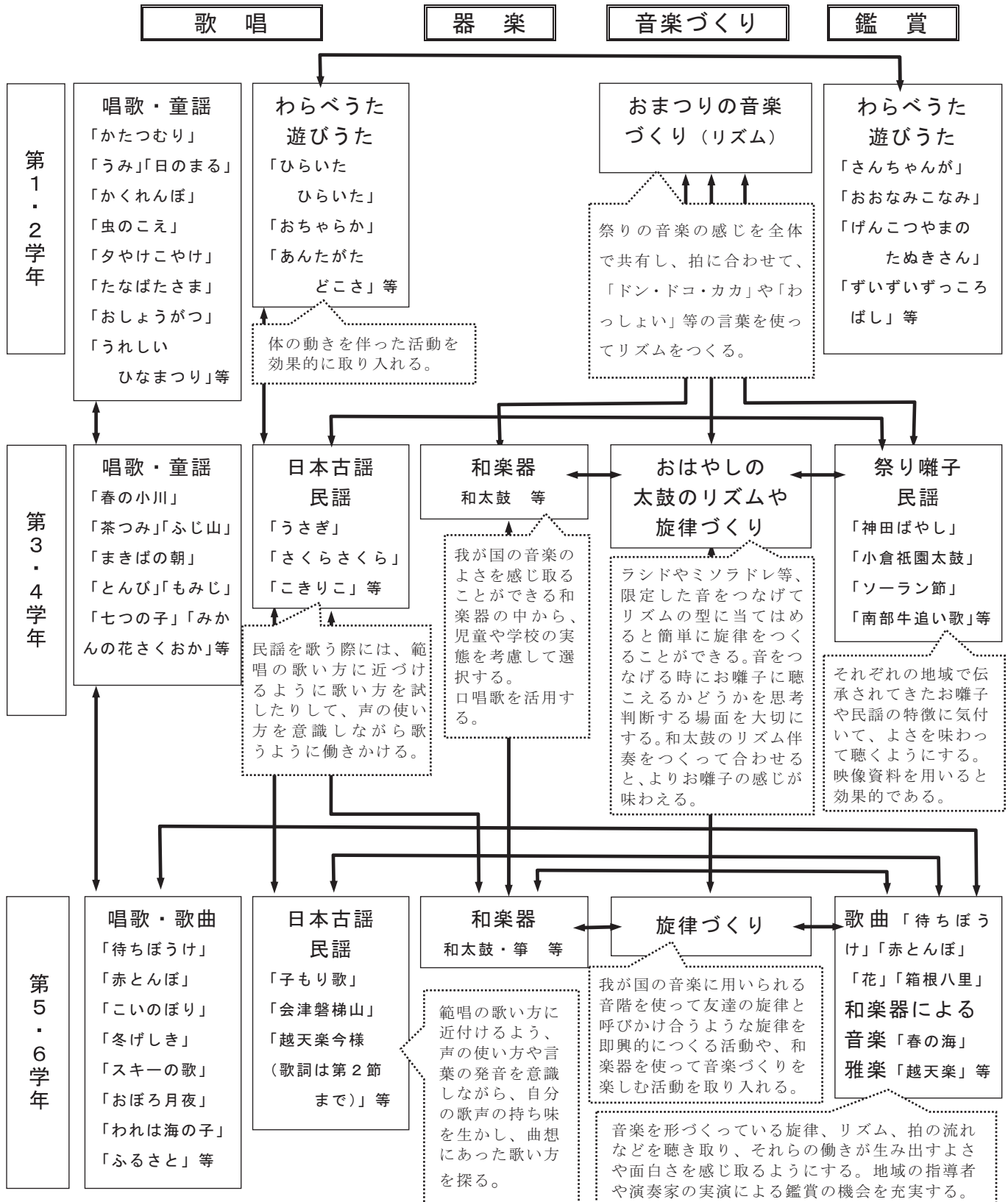
- ①〔共通事項〕を学習の支えとして、音楽を形づくっている要素などの働きについて実感を伴いながら理解し、表現や鑑賞などに生かすことができるようにすること
- ②音楽に関する歴史や文化的意義を、表現や鑑賞の活動を通して、自己との関わりの中で理解できるようにすること

各学年・領域における「知識」の捉え方について（→は、具体的な例）

	歌唱	器楽	音楽づくり	鑑賞
低学年	イ 曲想と音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付くこと →「ゆったりした感じがするのは、速度がゆっくりで、歌詞に海の大きさを表す言葉があるから。」ということに気付く。	イ 次の(ア)及び(イ)について気付くこと (ア) 曲想と音楽の構造との関わり →「明るく楽しい感じがするのは、曲全体が跳ねるようなリズムでできているから。」といったことに気付く。 (イ) 楽器の音色と演奏の仕方との関わり →鍵盤ハーモニカは、息を速く吹き込んだときには鋭い音になることに気付く。	イ 次の(ア)及び(イ)について、それらが生み出す面白さなどと関わらせて気付くこと (ア) 声や身の回りの様々な音の特徴 →トライアングルは、持ち方や打ち方を変えると音色や音の長さが違って面白いことに気付く。 (イ) 音やフレーズのつなげ方の特徴 →同じリズム・パターンを、楽器を変えて交互に演奏することで、お話し(まねっこ遊び)をしているようになることに気付く。	イ 曲想と音楽の構造との関わりについて気付くこと →行進の列が近づいて来るように聞こえるのは、楽器の音がだんだんと強くなるからということに気付く。
中学年	イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付くこと →「穏やかでゆったりした感じがするのは、旋律が四分音符のみで構成されているから。また、歌詞に春の小川とその周囲ののどかな状況が描かれているから。」といったことに気付く。	イ 次の(ア)及び(イ)について気付くこと (ア) 曲想と音楽の構造との関わり →「歯切れよく感じるのは、『タツカ』のリズムが繰り返して出てきたり、スタッカートで演奏したりするから。」といったことに気付く。 (イ) 楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり →「木琴は、マレットの違いによって音色や響きが違う。」といったことに気付く。	イ 次の(ア)及び(イ)について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて気付くこと (ア) いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴 →「ウッドブロックとクラベスを組み合わせると、同じ材質でも音高や音色が違って面白い。」など、音の響きやそれら組合せの違いに気付く。 (イ) 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴 →「短い旋律を繰り返したり、違う楽器で演奏したりすると面白い。」など、反復を意識したつなげ方の特徴に気付く。	イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付くこと →「小鳥が静かに鳴いている感じから、仲間とおしゃべりしている感じに変わったのは、主旋律に副旋律が加わったから。」といったことに気付く。
高学年	イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解すること →「勢いがあり、弾んだ感じになっているのは、速度が速く、付点を含んだ旋律が繰り返されているから。また、歌詞に大空を飛ぶ、大地を走るという表現があるから。」といったことを理解する。	イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること (ア) 曲想と音楽の構造との関わり →「もの悲しい感じがするのは、イ短調で、旋律の動きが穏やかだから。」といったことを理解する。 (イ) 多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり →「箏は、爪を当てる角度を変えたり、弦を弾く強さを変えたりすると音色や響きが変わる。」などを理解する。	イ 次の(ア)及び(イ)について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解すること (ア) いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴 →「カステネットとカウベルなど、材質の違う楽器の音色が重なり合っても、まとまりのある響きになる。」など組合せの統一感や響きの豊かさを理解する。 (イ) 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴 →「リズム・パターンを1小節ずつずらして人数を増やしながらか重ねていくと曲に盛り上がり生まれる。」など重ね方の特徴を理解する。	イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること →「動きのあるにぎやかな感じから堂々とした迫力のある雰囲気になったのは、八分音符や十六分音符などの細かいリズムが多い旋律から、二分音符などの伸ばす音が多い旋律に変わったから。」といったことを理解する。
	イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号について、音楽における働きと関わらせて理解すること。			

第4 我が国や郷土の伝統音楽に関わる指導の充実

今回の改訂において、「我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、よさを一層味わえるようにしていくこと」の「更なる充実が求められる」とされたことを踏まえ、第3学年及び第4学年で取り上げる旋律楽器に、我が国の音楽のよさを感じ取ることができ無理なく取り組むことができる箏などの和楽器が、新たに位置付けられた。今後は児童が我が国や郷土の音楽に愛着がもてるよう、指導の充実を図ることが重要となる。そのため、我が国や郷土の音楽において、各領域間、各学年間で系統的、発展的な指導計画を作成することが必要である。次の表は、本資料の年間指導計画に示された我が国や郷土の音楽に関連する題材の関連性を示したものである。



第5 指導内容の系統化

音楽科では学年目標及び内容を2学年まとめて示している。このことは、音楽科で育成を目指す資質・能力が、学年の継続・発展によって高められると、各教科でそれぞれの学年にふさわしい指導を工夫し、質的な高まりを意識することが重要である。また、小・中学校の9年間を見通した系統的な指導の展開にも十分考慮する必要がある。ここでは歌唱教材において、指導内容の系統化を示し、学年ごとの質的な高まりや、小・中学校の系統性の具体について示した。

	第5学年	第6学年	中学校
教材	「旅立ちの日に」		
題材について	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を生かして表現を工夫し、合唱の響きを味わう。 自分たちの演奏を録音するなどして客観的に聴き、意図したことが表現できているか意見を交換し、より豊かな表現を目指す。 音楽を通して思いを表現することのよさを実感する。 	<ul style="list-style-type: none"> 同声二部合唱の響きを感じて歌う。 友達と声を合わせたり、表現を工夫する喜びを味わったりしながら歌う。 曲想と音楽の構造（和音、フレーズ・音楽の縦と横の関係）や歌詞の内容とを関わりながら歌う。 協働して音楽活動をする楽しさを感じること、今後も主体的に音楽に関わっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解し、曲に対する自分のイメージを膨らませたり、他者のイメージと共感したりする。 音楽表現を工夫し、そのために必要な技能を身に付けて合唱する。（1年）
思考力 判断力 表現力等	<p>◎ 歌唱表現について知識や技能を得たり生かしたりしながら曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。</p> <p>◎ 速度や旋律、音の重なりなどを根拠に曲の特徴を見いだし、どのように歌うか思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「白い光の〜、勇気を翼に〜、今別れの時〜」の3つの部分で祭囃子が違うのでこの祭囃子の違いを生かして歌いたい。例えば、勇気を翼に〜から盛り上がるので響きのある声で歌いたい。 「勇気を翼に〜、勇気を翼に〜」の前のフレーズからクレッシェンドをして歌おう。 「最初が合唱で途中から二部合唱、最後は掛け合いになって、声の重なり方でも祭囃子の違いを表現している。合唱の部分に聴きかかると感じるのでフレースや言葉を揃えて歌い、二部合唱の部分では曲が盛り上がるので、広がりが出るように強弱を工夫して歌いたい。」 <p>曲の特徴について理解を深めたり、必要な技能を身に付けたりしながら声の音色、強弱、速度などの違いによる表現方法を工夫する楽しさを感じ、思いや意図を膨らませることが大切</p>	<p>◎ 音節やフレーズ、音楽の縦と横の関係を根拠に曲の特徴を見いだし、思いや意図をもつて歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「今別れの〜、勇気を翼に〜、今別れの〜」の3つの部分で祭囃子が違うのでこの祭囃子の違いを生かして歌いたい。例えば、勇気を翼に〜から盛り上がるので響きのある声で歌いたい。 「勇気を翼に〜、勇気を翼に〜」の前のフレーズからクレッシェンドをして、大空に〜 が一番響きのある声で歌いたい。」 この曲の歌詞、作曲が学校の先生であることを知り、この曲の歌詞に込められた意味を考えながら工夫して歌う。 <p>このように歌いたいという考えをもつ</p>	<p>【指導事項ア】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1年：歌唱表現に係わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること 2、3年：歌唱表現に係わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫すること
学習指導要領の内容（表現）	<p>◎ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解すること。</p> <p>◎ 感じ取った曲想と、歌詞の内容との関わりについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「曲の祭囃子が違、3つの部分で、白い光の〜、の部分が響きかかっている感じが滑らかで、歌詞の響きや風景ともあっている。」 「勇気を翼に〜、から音楽が盛り上がる感じがするの、は、合唱から二部合唱になって響きかかっていたことや、徐々にクレッシェンドしているから。」 <p>児童が感じ取った曲想を基にしたしながら、リズムや旋律、声部の重なりなどの特徴や、歌詞の内容に目を向けるようにするなど、効果的な手立てを工夫することが大切</p>	<p>【指導事項ア（ア）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1年：曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解すること 2、3年：曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解すること 	<p>【指導事項ア（ア）】</p> <p>創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体を使い方などの技能</p> <p>（イ）創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能</p>
知識	<p>◎ 各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて声に合わせて歌う技能</p> <p>【指導事項ウ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 声部の部分、二部合唱の部分、掛け合いの部分、それぞれ音の重なり方における響きの違いを感じながら歌う。 ○ 声部の部分、二部合唱の部分、掛け合いにより生み出される様々な響きを取り、各声部の役割を理解しながら豊かな表現になるように歌う。 ○ 合唱の部分は各声部の役割を理解して、全体のバランスを考えながら歌おう。 ○ 「この広い〜、からは掛け合いによる面白さを表現するために、各声部の強弱を工夫して歌い、最後の付点二分符や全音符の響きかかっているように、口形や口の使い方を工夫して歌おう。」 <p>思いや意図に合った表現するために必要な技能を身に付ける。</p>	<p>【指導事項ウ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 声部の部分、二部合唱の部分、掛け合いにより生み出される様々な響きを取り、各声部の役割を理解しながら豊かな表現になるように歌う。 ○ 合唱の部分は各声部の役割を理解して、全体のバランスを考えながら歌おう。 ○ 「この広い〜、からは掛け合いによる面白さを表現するために、各声部の強弱を工夫して歌い、最後の付点二分符や全音符の響きかかっているように、口形や口の使い方を工夫して歌おう。」 	<p>【指導事項ウ】</p> <p>（ア）創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体を使い方などの技能</p> <p>（イ）創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能</p>
技能	<p>児童が感じ取った曲想を基にしたしながら、リズムや旋律、声部の重なりなどの特徴や、歌詞の内容に目を向けるようにするなど、効果的な手立てを工夫することが大切</p>	<p>児童が感じ取った曲想を基にしたしながら、リズムや旋律、声部の重なりなどの特徴や、歌詞の内容に目を向けるようにするなど、効果的な手立てを工夫することが大切</p>	<p>児童が感じ取った曲想を基にしたしながら、リズムや旋律、声部の重なりなどの特徴や、歌詞の内容に目を向けるようにするなど、効果的な手立てを工夫することが大切</p>
学習内容	<p>曲の特徴を生かした表現を工夫し、合奏や合唱の響きを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各パートの役割を意識して、全体のバランスを考えながら演奏する。 録音して自分たちの演奏を客観的に聴き、意図したことが表現できているか話し合ったりしてよりよい表現を目指す。 	<p>二部合唱の響きや重なり方の変化を感じたりして歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> パートごとと音程を確認しながら歌ったり、互いの声を聴きながら全体のバランスを考えながら歌ったりする。 音の重なり方の変化と曲の構成を結び付け、互いの声を聴き合いながら響きの変化を感じ取りながら歌う。 縦と横の関係を聴き、和音の重なりや響きを感じるように工夫し歌詞の内容がわかったりするように、フレーズに着目し、表現にふさわしい呼吸や発音の仕方を工夫する。 	<p>二部合唱の響きや重なり方の変化を感じたりして歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> パートごとと音程を確認しながら歌ったり、互いの声を聴きながら全体のバランスを考えながら歌ったりする。 音の重なり方の変化と曲の構成を結び付け、互いの声を聴き合いながら響きの変化を感じ取りながら歌う。 縦と横の関係を聴き、和音の重なりや響きを感じるように工夫し歌詞の内容がわかったりするように、フレーズに着目し、表現にふさわしい呼吸や発音の仕方を工夫する。
学習活動			※中学校教育課程編成要領（音楽）参照

第6 1 単位時間の指導計画（第5学年）

- (1)題材名 日本と世界の音楽の魅力を見つけよう
 (2)題材の目標 省略
 (3)指導事項 A表現 (3)音楽づくりーア(イ)、イ(イ)、ウ(イ)
 (4)題材の指導計画（9時間扱い）

1 5 4	「春の海」「さくらさくら」 ○箏と尺八の音色や旋律の関わり合いを感じ取り、楽曲全体の構成をつかんで聴く。 ○箏の基本的な演奏の仕方を身に付け、「さくらさくら」を演奏する。
5	「子もり歌」 ○音階が異なる「子もり歌」を歌い比べ、曲想の違いを感じ取る。
6 7 (本時) 8	「旋律づくり」 ○5つの音〔ミ、ファ、ラ、シ、ド、(ミ)〕をつかかって、2小節の旋律をつくり、ソプラノリコーダーで演奏する。 ○グループで旋律をつなげて、まとまりのある旋律をつくる。
9	「声による世界の国々の音楽」 ○世界の国々の音楽の歌声、歌い方の特徴や違い、雰囲気を感じ取って聴く。

- (5)本時の目標 反復、呼びかけとこたえ、変化などを生かして、友達と旋律をつなげて、まとまりのある旋律をつくる。(7/9時間)

(6)展 開

○学習内容・学習活動	○指導上の留意点
<p>○友達と旋律をつなげて、8小節のまとまりのある旋律をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4人グループになり、前時に自分がつくった2小節の旋律をソプラノリコーダーで発表し合う。 ・まとまりのある旋律になるように話し合いと試奏を繰り返す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>①各自の旋律を、組合せの順番を考えながらつなげる。 ②つなげた旋律をまとまりのある旋律になるように工夫する。</p> </div> <p>○他のグループの演奏を基に、旋律のつなげ方や終わり方を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他のグループの発表を聴き、意見を発表し合う。 <p>・<u>他のグループの発表を基に、各グループで、まとまりのある旋律になるように話し合いと試奏を繰り返す。</u></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;"> <p>主体的・対話的で深い学びの視点</p> </div> <p>○本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習カードに、工夫した自分の2小節の旋律と、工夫の理由を記入する。 	<p>○指導上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○発表の際には、前時に使用した学習プリントをグループの友達に見せるようにし、旋律を捉えやすくする。 ○思いや意図と音楽が結び付くようにするために、話し合いに終始せず、必ず音で確かめることを確認する。 ○各自の旋律の順番を考える際には、学習プリントを活用することを伝える。 ○<u>旋律の演奏が困難な場合には、教師が代わりに演奏し、旋律のつながりを確かめられるようにする。</u> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;"> <p>配慮を要する児童への指導の視点</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○発表を聴く児童には、自分たちの旋律づくりに生かせるところと、改善できるところをポイントに聴くことを伝える。 ○まとまりのある旋律になるように、続く感じや終わる感じを意識したり、反復、呼びかけとこたえ、変化などの音楽の仕組みをつかたりして、旋律を変えてもよいことを例示しながら伝える。 ○発表を聴いた児童が考えた工夫を試す場を設ける。 ○各自がつくった旋律を見直し、グループの演奏に合わせて旋律を変えてもよいことを確認する。 ○<u>振り返りをしやすくするため、ICレコーダーを活用し、録音を基に演奏の聴き比べをしたり、よさや課題を見付けたりし、よりよい音楽表現を生み出していくようにする。</u> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;"> <p>教科横断的な視点 (情報活用能力・問題発見・活用能力)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを表現できない児童には、対話を通して考えを引き出したり、整理したりするようにする。